



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **06231143 A**

(43) Date of publication of application: 19 . 08 . 94

(51) Int. Cl

G06F 15/21(21) Application number: **05034404**

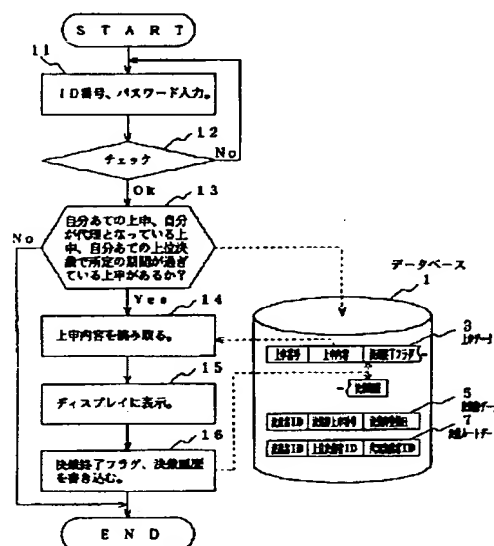
(22) Date of filing: 29 . 01 . 93

(71) Applicant: **TOKYO GAS CO LTD**(72) Inventor:
**YOSHIDA MITSUO
MORIYAMA AKIHIKO
AMANO MASARU
HONDA HIROSHI****(54) ELECTRONIC DECISION SYSTEM****(57) Abstract:**

PURPOSE: To provide an electronic decision system capable of deciding an application even if a decider is absent for a long period or a short period.

CONSTITUTION: A data base 1 connected to a host computer stores application data 3, a decision waiting data 5 and decision route data 7. When an operator inputs an ID number and a password from a terminal equipment 11, the computer checks the inputted contents (12), and when the password is valid, retrieves the existence of an application to the computer itself, the application applied to the computer as a substitute, or the application applied to the computer itself as approval after an allowable prescribed period by using the ID number as a key (13). When the application concerned exists, the contents of the application are read out (14) and displayed on a display in the terminal equipment (15). In the case of submitting the application, the operator writes decision history through a keyboard.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio



(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-231143

(43)公開日 平成6年(1994)8月19日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 15/21

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 8724-5L

審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 12 頁)

(21)出願番号 特願平5-34404

(22)出願日 平成5年(1993)1月29日

(71)出願人 000220262

東京瓦斯株式会社

東京都港区海岸1丁目5番20号

(72)発明者 吉田 光雄

千葉県千葉市中央区仁戸名町425-1

(72)発明者 森山 昭彦

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町2312-19

(72)発明者 天野 勝

埼玉県春日部市千間1-301-3-13-405

(72)発明者 本田 博

埼玉県上尾市原市780-13

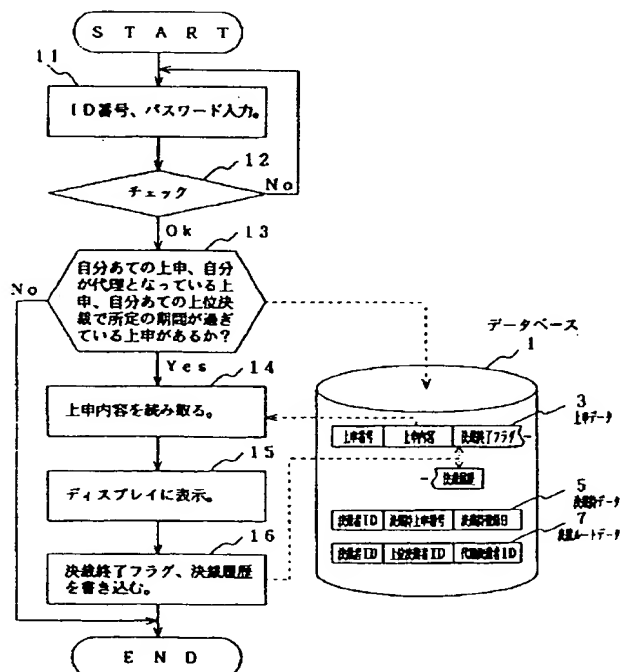
(74)代理人 弁理士 井上 誠一

(54)【発明の名称】 電子決裁システム

(57)【要約】 (修正有)

【構成】 ホストコンピュータにはデータベース1が接続され、上申データ3、決裁待データ5、決裁ルートデータ7が格納される。操作者が端末装置からID番号、パスワードを入力するとコンピュータはこれをチェックしパスワードが妥当であれば、ID番号をキーとして自分あての上申、自分が代理となっている上申、自分あての上位決裁で所定の期間が過ぎた上申があるかをデータベース1で検索する。このような上申があればその上申内容を読み取り端末装置のディスプレイに表示させる。そして操作者は上申を行う場合、キーボードから決裁履歴を書き込む。

【効果】 決裁者が長期的、あるいは短期的に不在となっても、上申を決裁することのできる電子決裁システムを提供することにある。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ある人が直接決裁者となる上申と、その人が代理決裁者となる上申と、その人が上位決裁者となっており上申入力日が登録された上申とが、その人の ID 番号とともにレコードとして記憶されたデータベースと、

操作者が ID 番号を入力すると、この操作者が直接決裁者、または代理決裁者、または上位決裁者となり上申入力日から所定期間経過している上申を前記データベースから検索する手段と、

検索された上申に決裁を行う場合は、前記操作者からの指示に従って、この上申のレコードに決裁フラグを書き込む手段と、

を具備する電子決裁システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、企業等において上申内容を端末装置から決裁できる電子決裁システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の電子決裁システムとしては、次のようなものがある。すなわち、ホストコンピュータに複数の端末装置が接続され、上申担当者が上申しようとする内容を端末装置から入力し、ホストコンピュータがこの上申内容を記憶しておく。決裁者が端末装置を操作すると、自己あての上申があればディスプレイ上に表示され、決裁者がキーボードから決裁すべき旨を入力する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら従来の電子決裁システムでは 1 つの上申に対して決裁者が 1 名に限定されていた。このため決裁者が長期的に不在となっている場合に決裁を行うことができず、また決裁者が短期的に不在となっている場合でも緊急を要する上申に対して決裁を行うことができないという問題があった。

【0004】 本発明は、このような問題に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、決裁者が長期的、あるいは短期的に不在となっても、上申を決裁することのできる電子決裁システムを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 図 1 は、本発明の原理説明図である。図 1 に示すフローチャートは端末装置、およびホストコンピュータが行う処理を示す。このホストコンピュータにはデータベース 1 が接続され、このデータベース 1 内に上申データ 3、決裁待データ 5、決裁ルートデータ 7 が格納される。上申データ 3 には上申番号、上申内容、決裁終了フラグ、決裁履歴等が書き込まれている。決裁待データ 5 には決裁者 ID、決裁待上申番号、決裁待登録日が書き込まれている。決裁ルートデータベース 7 には決裁者 ID、上位決裁者 ID、代理決裁者 ID が書き込まれている。

【0006】 操作者（決裁者）が端末装置から自己の ID 番号、およびパスワードを入力すると（ステップ 11）、ホストコンピュータはこれをチェックし（ステップ 12）、パスワードが妥当であれば、入力された ID 番号をキーとして自分（操作者）あての上申、自分が代理となっている上申、自分あての上位決裁で所定の期間が過ぎている上申が存在するか否かをデータベース 1 で検索する（ステップ 13）。このような上申があれば、その上申内容を読み取り（ステップ 14）、端末装置のディスプレイに表示させる（ステップ 15）。そして操作者は上申を行う場合、キーボードから決裁終了フラグ、決裁履歴を書き込む（ステップ 16）。

【0007】

【作用】 本発明では、操作者が自己の ID 番号を入力すると自分あての上申、自分が代理となっている上申、自分あての上位決裁で所定の期間が過ぎている上申が検索されてディスプレイ上に表示される。言い換えれば決裁すべき人が長期的に不在となる場合、代理決裁をすべき人を指定して、この代理決裁者が緊急を要するような上申を決裁できる。また決裁すべき人が短期的に不在となる場合、その上位決裁者が所定期間過ぎている上申を決裁することができる。

【0008】 このように本発明では、決裁者が長期的または短期的に不在となっても上申を円滑に決裁することができる。

【0009】

【実施例】 以下、図面に基づいて本発明の実施例を詳細に説明する。図 2 は、本発明の 1 実施例に係る電子決裁システムのシステム構成図である。この電子決裁システムはホストコンピュータ 21 に上申データベース 23、決裁待データベース 25、決裁ルートベース 27 が接続され、またこのホストコンピュータ 21 に複数の端末装置 29 a、29 b、29 c ……が接続される。図において 31 は上申担当者、33 は決裁者、35 は代理決裁者、37 は上位決裁者を示す。

【0010】 上申データベース 23 は上申データ 3 を格納し、決裁待データベース 25 は決裁待データ 5 を格納し、決裁ルートデータベース 27 は決裁ルートデータ 7 を格納する。

【0011】 図 3 は上申データ 3、決裁待データ 5、決裁ルートデータ 7 のフォーマット図である。図 4 は上申データ 3、決裁待データ 5、決裁ルートデータ 7 のレコードをカードイメージとして表わした図である。図 3 (a) は上申データ 3 のフォーマットを示し、上申データ 3 は上申番号、金額、仕様、数量、上申担当者名、決裁終了フラグ、決裁履歴を書き込む欄からなる。

【0012】 上申番号は各レコードに昇順に書き込まれ、図 4 (a) に示すように各レコードが上申データベース 23 に格納される。決裁終了フラグは決裁をした場合にフラグがたてられる。決裁履歴には決裁日等が書き

込まれる。

【0013】図3(b)は決裁待データ5のフォーマットを示し、決裁待データ5は決裁者ID、決裁待上申番号、決裁待登録日を書き込む欄からなる。決裁者IDは決裁をすべき人のID番号である。決裁待上申番号は上申データ3が作成されたとき、この上申データ3の上申番号と同一の番号が割り付けられる。決裁待登録日は上申データ3を作成した日付が書き込まれる。図4(b)に示すように決裁待データ5は決裁待上申番号が昇順となるように、決裁待データベース25に格納される。

【0014】図3(c)は決裁ルートデータ7のフォーマットを示し、決裁ルートデータ7は決裁者ID、上位決裁者ID、代理決裁者IDを書き込む欄からなる。決裁者IDは決裁をすべき人のID番号である。上位決裁者IDは決裁者の上位決裁者のID番号である。通常、上位決裁者は決裁者の上司である。したがって決裁者IDと上位決裁者IDは上申するごとに作成されるものではなく、この電子決裁システム構築時に作成される。

【0015】代理決裁者IDは決裁者が適宜書き込むもので、この決裁者の代理決裁を行う人のID番号である。すなわち決裁者が長期的に不在となるような場合、決裁者が代理決裁者を指定して代理決裁者IDを書き込む。

【0016】つぎに本実施例の処理を図5から図11のフローチャートにしたがって説明する。まず操作者が端末29からID番号およびパスワードを入力すると(ステップ501、502)、ホストコンピュータ21はID番号およびパスワードのチェックをおこなう(ステップ503)。ID番号およびパスワードが妥当なものであれば端末29のディスプレイにメニューが表示される(ステップ504)。このメニューには「上申入力をおこないますか」、「決裁入力をおこないますか」、「代理決裁入力をおこないますか」という表示がなされる。操作者はそのいずれかを選択する(ステップ505)。すなわち「上申入力」を選択すると上申入力処理がおこなわれ(ステップ506)、「代理決裁入力」を選択すると代理決裁入力処理がおこなわれ(ステップ507)、「決裁入力」を選択すると決裁入力処理がおこなわれる(ステップ508)。

【0017】つぎにステップ506の上申入力処理について図6にしたがって説明する。操作者は端末装置29のキーボードから上申内容を入力する(ステップ601)。すなわち上申件名、金額、仕様、数量、上申担当者名等を入力する。ホストコンピュータ21は、この上申内容を上申データベース23の上申データ3に登録する(ステップ602)。このとき上申番号が自動的に割り付けられる。このようにして上申データ3が作成される。この場合、決裁終了フラグはオフとなっており、決裁履歴には何も書かれていない。

【0018】つぎにホストコンピュータ21は決裁ルー

トデータベース27から操作者の上位決裁者IDを読み取る(ステップ603)。すなわち、このときすでに決裁ルートデータベース27には決裁者IDに対応して上位決裁者IDが記憶されており、ホストコンピュータ21はステップ501で入力したID番号と一致する決裁者IDを検索し、このレコードの上位決裁者IDを読み取る。

【0019】つぎに決裁待データベース25の決裁待データ5の決裁者IDにステップ603で読み取られた上位決裁者IDを書き込む。また上申データ3の上申番号と同一の番号を決裁待上申番号に書き込み、上申をおこなった日付を決裁待登録日を書き込む(ステップ604)。このようにして上申データ3および決裁待データ5が作成される。

【0020】つぎにステップ507の代理決裁入力処理について図7にしたがって説明する。操作者は自分が決裁者であるような場合で、自分が長期的に不在となるような場合、他の人に代理決裁を委託する。すなわち端末装置29のキーボードから代理決裁者のID番号を入力する(ステップ701)。ホストコンピュータ21は決裁ルートデータベース27の決裁ルートデータ7の代理決裁者IDの欄にステップ701で入力されたID番号を書き込む(ステップ702)。すなわち、この場合ステップ501で入力されたID番号と一致する決裁者IDを有するレコードが決裁ルートデータベース27で検索され、このレコードの代理決裁者IDの欄にステップ701で入力されたID番号が書き込まれる。

【0021】つぎにステップ508で示す決裁入力処理について図8から図11にしたがって説明する。この状態では上申データベース23、決裁待データベース25、決裁ルートデータベース27には、図3で示すような上申データ3、決裁待データ5、決裁ルートデータ7がすでに格納されている。ただし上申データ3の決裁終了フラグおよび決裁履歴は書き込まれていない。

【0022】ホストコンピュータ21はステップ501で入力したID番号と一致する決裁者IDを有するレコードが決裁待データベース25に存在するかを検索する(ステップ801)。このようなレコードが存在する場合、このレコードの決裁待上申番号と一致する上申番号を有するレコードを上申データベース23から検索し(ステップ802)、決裁処理がおこなわれる。ステップ802、803の処理はかかるレコードが決裁待データベース25に複数個存在する場合、繰り返しておこなわれる。以上の処理はステップ501でID番号を入力した操作者が自己あての上申を決裁する場合を示す。

【0023】つぎにホストコンピュータ21はステップ501で入力したID番号と一致する代理決裁者IDを有するレコードが決裁ルートデータベース27に存在するかを検索する(ステップ901)。このようなレコードが存在する場合、このレコードの決裁者IDと一致す

る決裁者IDを有するレコードを決裁待データベース25から検索する(ステップ902)。検索されたレコードの決裁待上申番号と一致する上申番号を有するレコードを上申データベース23から検索し(ステップ903)、決裁処理がおこなわれる(ステップ904)。ステップ902、903、904の処理はかかるレコードが決裁ルートデータベース27に複数個存在する場合、繰り返しておこなわれる。ステップ901からステップ904の処理は、ステップ501でID番号を入力した操作者が、代理決裁者となっている上申を決裁する場合を示す。

【0024】つぎにホストコンピュータ21はステップ501で入力したID番号と一致する上位決裁者IDを有するレコードが決裁ルートデータベース27に存在するか否かを検索する(ステップ1001)。かかるレコードが存在する場合、このレコードの決裁者IDと一致する決裁者IDを有するレコードを決裁待データベース25から検索し(ステップ1002)、このレコードの決裁待登録日を読み取り(ステップ1003)、この決裁待登録日から所定期間過ぎていれば(ステップ1004)、このレコードの決裁上申番号と一致する上申番号を有するレコードを上申データベース23から検索し(ステップ1005)、決裁処理をおこなう(ステップ1006)。ステップ1002からステップ1004の処理はステップ1001で示すレコードが決裁ルートデータベース27に複数個存在する場合、繰り返しておこなわれる。ステップ1001からステップ1006の処理は、ステップ501でID番号を入力した操作者が、上位決裁者となっている上申を決裁する場合を示す。

【0025】つぎにステップ803、904、1006で示す決裁処理について図11にしたがって説明する。操作者が決裁をおこなおうとする場合(ステップ1101)、上申データベース23から検索されたレコードに決裁終了フラグを書き込み、決裁履歴に決裁日を登録する(ステップ1102)。さらにこのレコードの上申番

号と一致する決裁上申番号を有するレコードを決裁待データベース25から削除する(ステップ1103)。

【0026】このように本実施例では決裁者が長期的に不在となる場合、代理決裁者を指定しておくことができ、この決裁者あての緊急の上申が生じてでも対処することができる。また決裁者が短期的に不在となる場合、その上位決裁者が所定の期間を経過しているような上申を処理することができる。

【0027】

【発明の効果】以上、詳細に説明したように本発明によれば、決裁者が長期的、あるいは短期的に不在となっても、上申を円滑に処理することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の原理説明図

【図2】 本発明の1実施例に係る電子決裁システムのシステム構成図

【図3】 上申データ3、決裁待データ5、決裁ルートデータ7のフォーマット図

【図4】 上申データベース23、決裁待データベース25、決裁ルートデータベース27内のレコードをカードイメージとして表わした図

【図5】 本実施例の動作を示すフローチャート

【図6】 本実施例の動作を示すフローチャート

【図7】 本実施例の動作を示すフローチャート

【図8】 本実施例の動作を示すフローチャート

【図9】 本実施例の動作を示すフローチャート

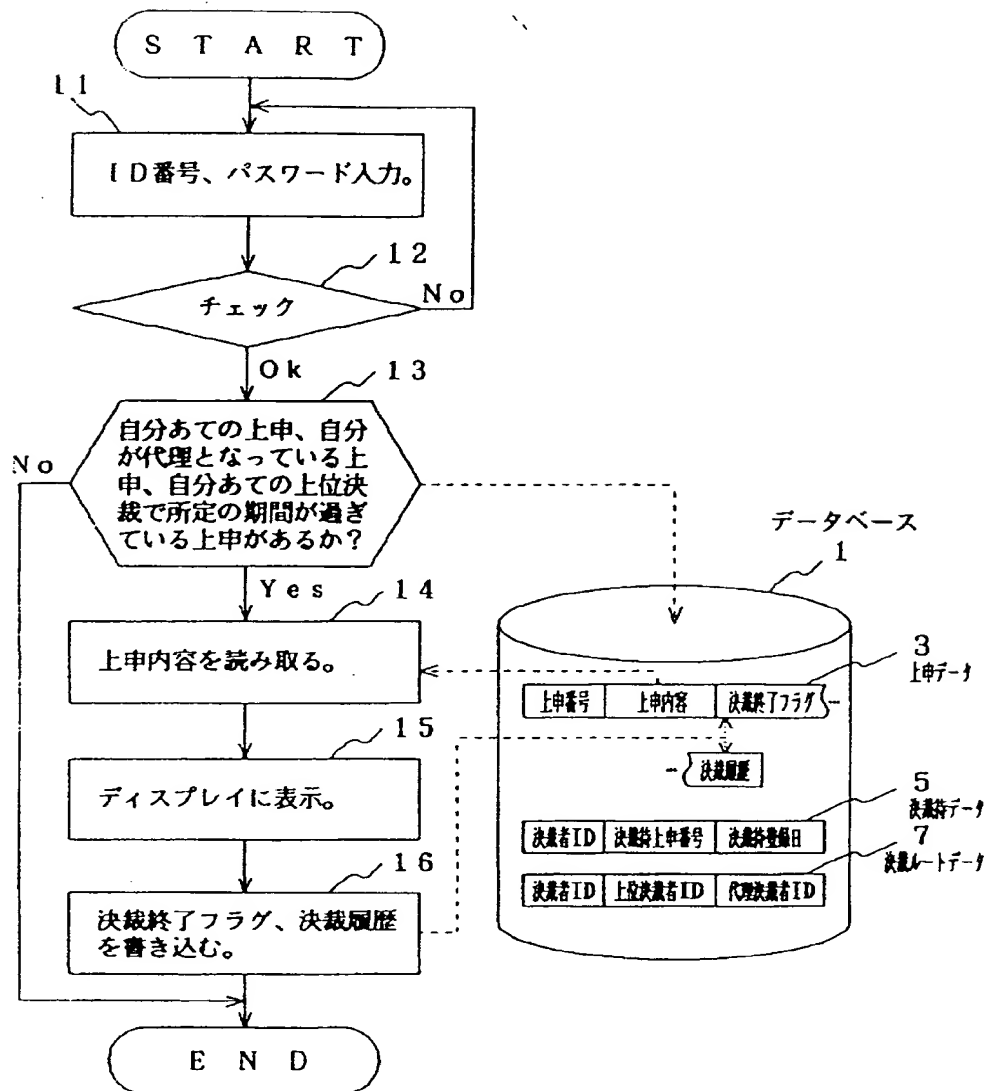
【図10】 本実施例の動作を示すフローチャート

【図11】 本実施例の動作を示すフローチャート

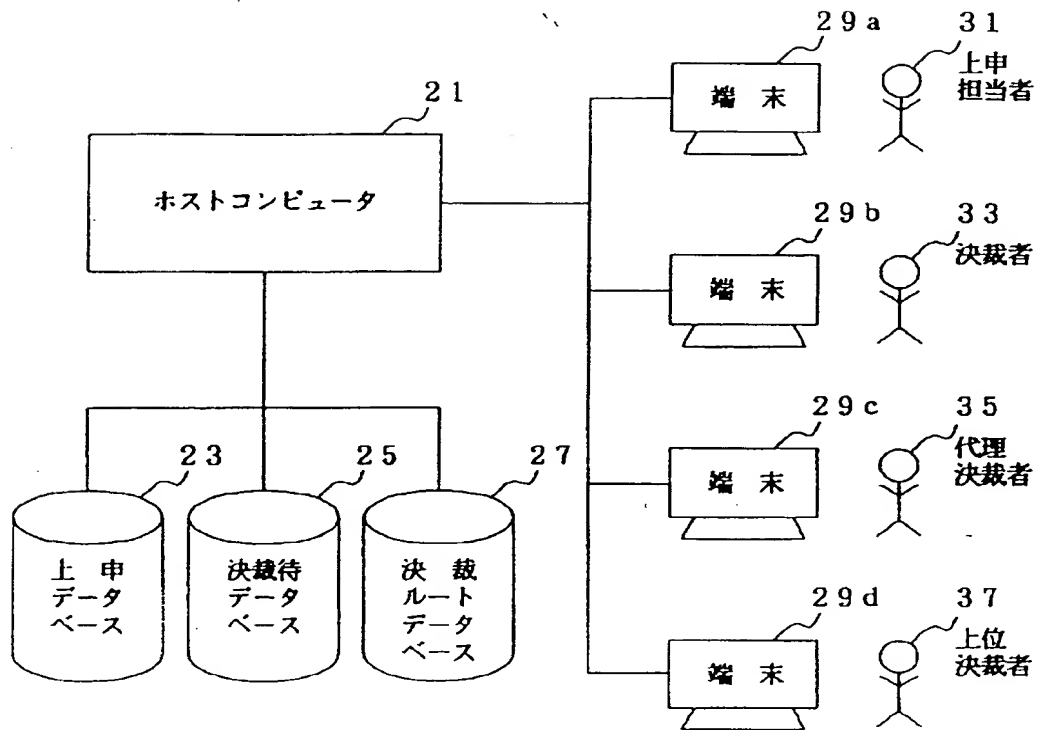
【符号の説明】

21………ホストコンピュータ
23………上申データベース
25………決裁待データベース
27………決裁ルートデータベース
29………端末装置

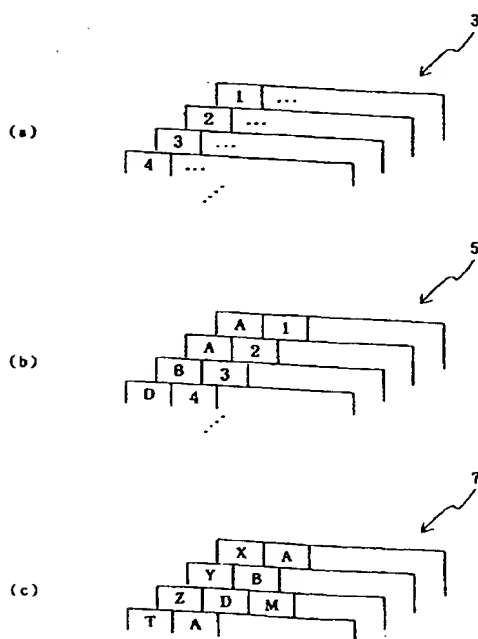
【図 1】



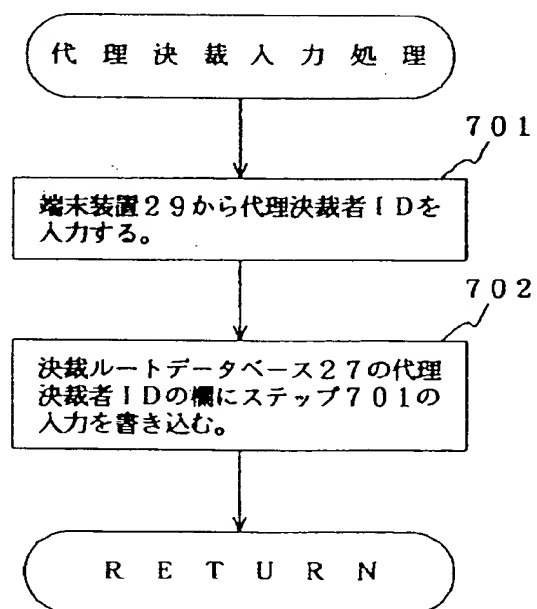
【図2】



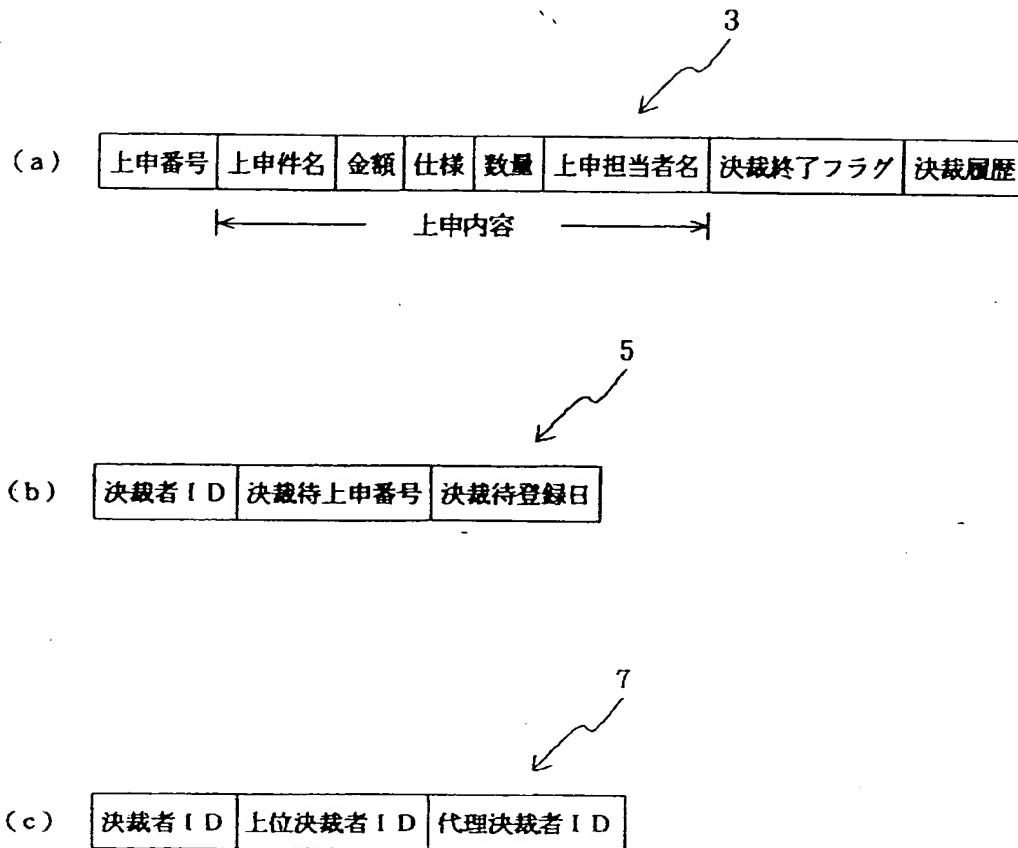
【図4】



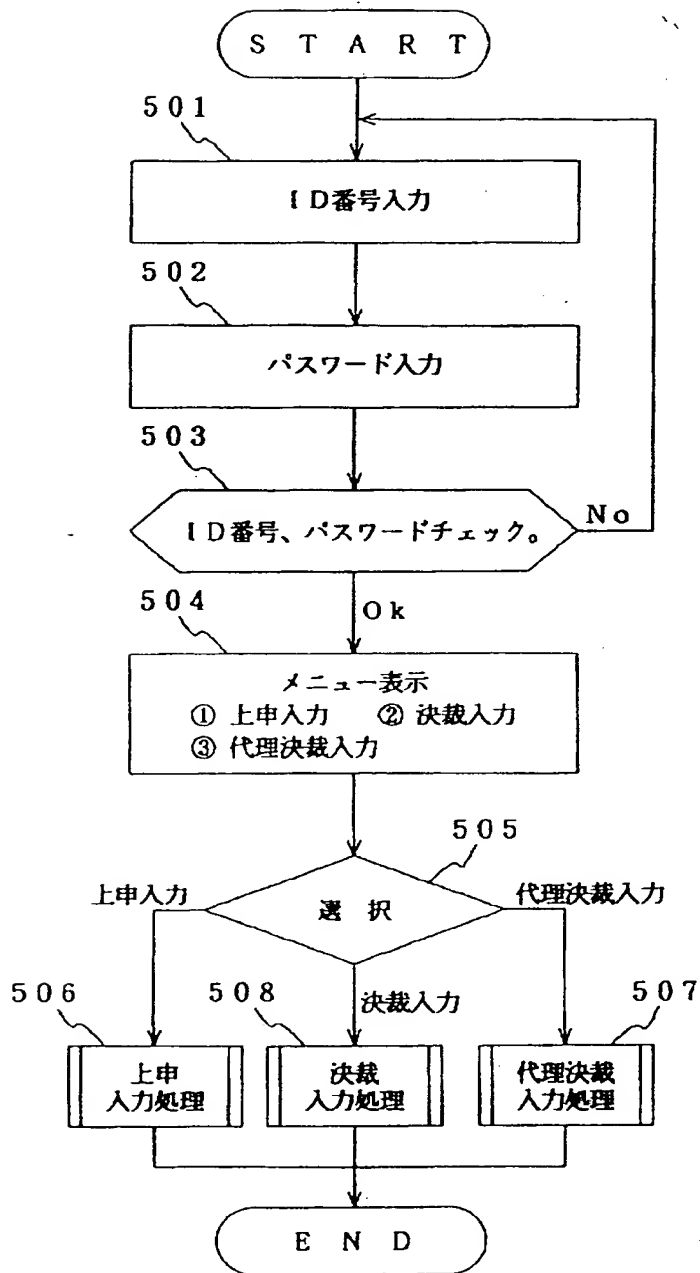
【図7】



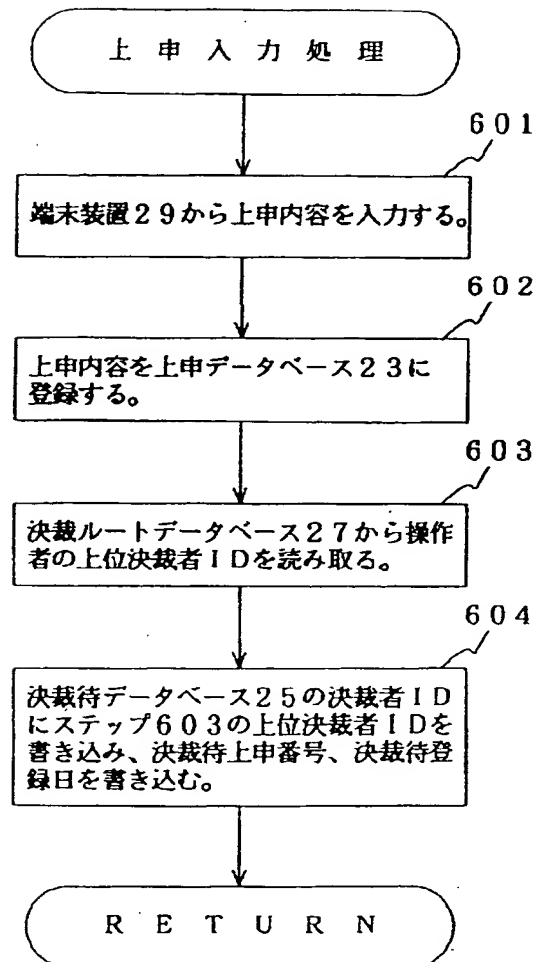
【図 3】



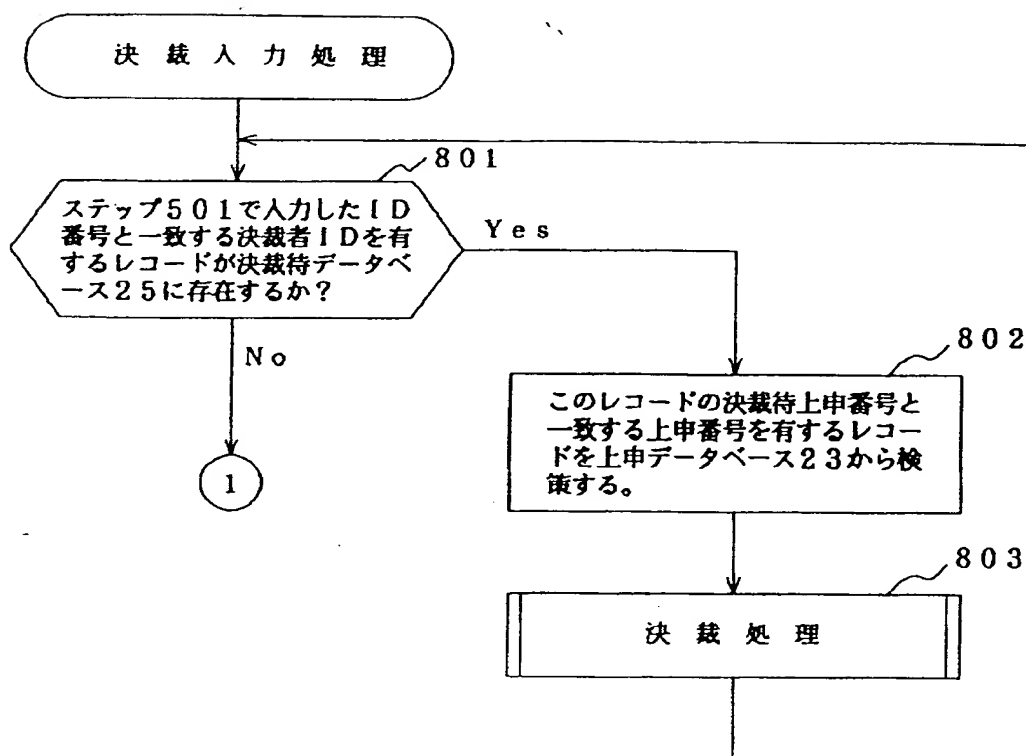
【図 5】



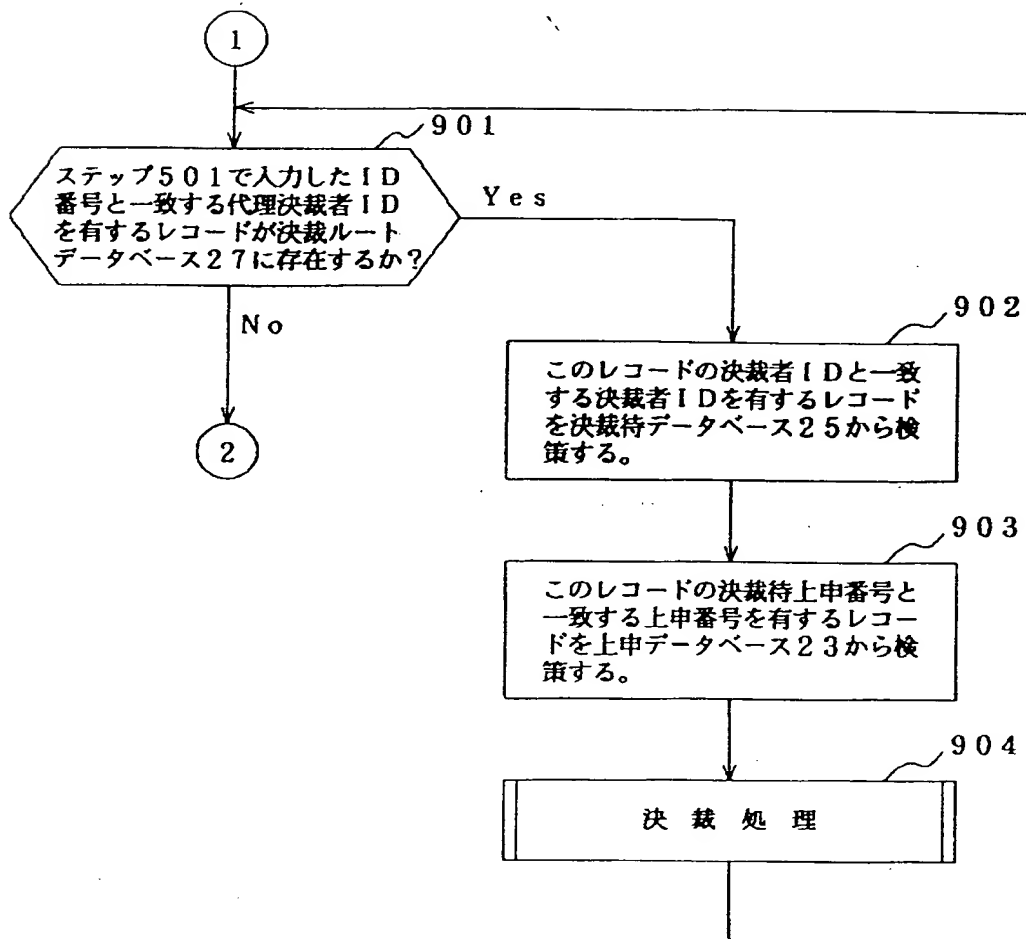
【図 6】



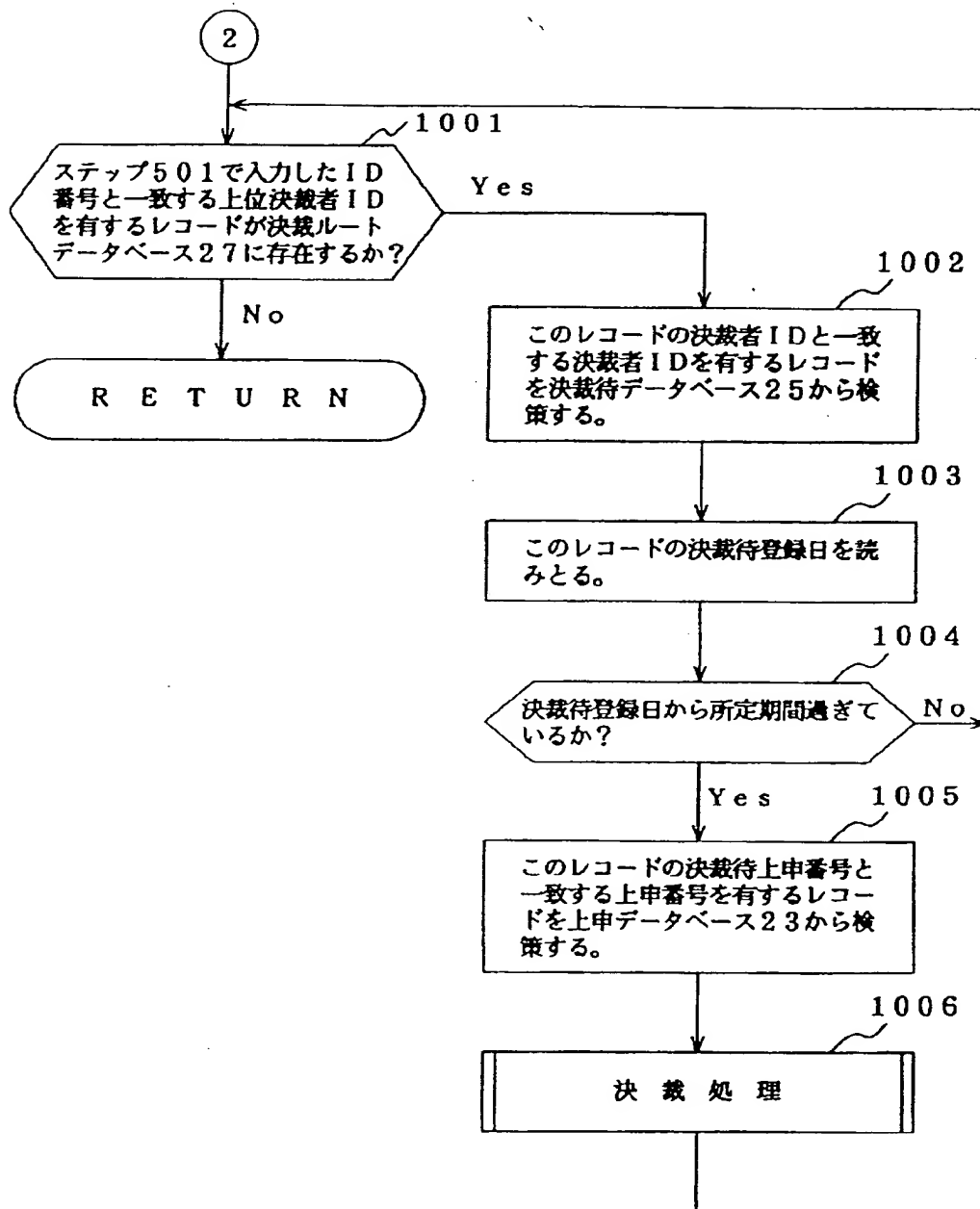
【図 8】



【図9】



【図10】



【図 11】

